

教材教員および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
でんしゃ遊び	小	高学年 ペンギングループ （国語・算数）	細野恵美子

<ねらい>

- ・絵本の読み聞かせを見聞きする中で、電車が動く面白さを感じながら、教師とのやりとりを楽しむ。
- ・電車遊びでは、電車に乗って、足でこいで動くことを楽しむ。
- ・暗くなった室内を懐中電灯の明かりで進む。
- ・電車に乗ってスロープを登ったり、滑ったりする。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

○紙芝居の読み聞かせ

- ・絵本『でんしゃがゴットン』 出版：岩崎書店 作者：冬野いちご
絵本の内容：電車が町の駅を出発します。車と競争したり、踏み切りを気をつけて通ったり、トンネルはライトを付けて進んだりします。高い鉄橋はちょっと怖いけど渡り、山道を登って山の駅に到着します。
- ・電車が動く仕掛けにした紙芝居で読み聞かせ
「ごっとなん」との擬態語に合わせて電車のパーツを、紙芝居に穴を開けた部分に沿って動かした。児童の前を電車のパーツを走るようにして、電車に注目させた。

○電車遊び

- ・広い場所で活動できるように、音楽室で取り組んだ。
- ・腰掛台車「らっ君」に段ボール箱で制作したカバーをつけた。
カバーは、児童と一緒に色を塗り、窓に見立てた四角いシールをはって、電車に見立てられるようにした。
- ・足でしっかりこいで進めるように、裸足で取り組んだ。
- ・電車遊びの前に「ふれあいリラックス体操」で、体をほぐしてから取り組むようにした。
- ・絵本の場面に合わせて、教室を暗くして、懐中電灯で進む活動や、スロープを登ったり、滑ったりする活動ができるように設定した。
- ・「♪グーチョコキパーでなにつくろう」の替え歌「でんしゃがゴットン」を歌うことで、楽しい雰囲気になるようにした。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・紙芝居の電車が動くことで、興味をもって見聞きすることができた。
- ・どの児童も自分から電車に見立てた腰掛台車に乗って、室内を進むことを楽しむようになった。最初、進むことが難しかった児童も、どのように足でこいだらいいかが分かり、進めるようになった。
- ・音楽室は広さがあり、活動を設定しやすかった。カーテンを閉めて暗くすることもできたので、トンネルの場面を設定し、懐中電灯をつけての活動にも興味をもつことができた。



